

2 前項第三号の場合において、著作権者の請求があるときは

は、当該補償金を支払うべき者は、自己の見積金額を支払うべき者と、裁定に係る補償金の額との差額を供託しなければならない。

3 第六十七条第一項、第六十七条の二第五項若しくは前二項の規定による補償金の供託又は同条第一項の規定による担保金の供託は、著作権者が国内に住所又は居所で知っているものを有する場合にあつては当該住所又は居所の最寄りの供託所に、その他の場合にあつては供託をする者の住所又は居所の最寄りの供託所に、それぞれするものとする。

4 前項の供託をした者は、すみやかにその旨を著作権者に通知しなければならない。ただし、著作権者の不明その他の理由により著作権者に通知することができない場合は、この限りでない。

第七四条（略）

- 一 補償金の提供をした場合において、著作権者がその受領を拒んだとき。
- 二 著作権者が補償金を受領することができないとき。
- 三 その者が著作権者を確知することができないとき（その者に過失があるときを除く）。
- 四 その者がその補償金の額について第七十二条

第一項の訴えを提起したとき。

2 前項第四号の場合において、著作権者の請求があるときは、当該著作権を目的とする質権が設定されているときは、当該補償金を支払うべき者は、自己の見積金額を支払い、裁定に係る補償金の額との差額を供託しなければならない。

3・4 （略）

第十節 登録

（実名の登録）

第七五条 無名又は変名で公表された著作物の著作者は、現にその著作権を有するかどうかにかかわらず、その著作物についてその実名の登録を受けることができる。

2 著作者は、その遺言で指定する者により、死後において前項の登録を受けることができる。

3 実名の登録がされている者は、当該登録に係る著作物の著作者と推定する。

（第一発行年月日等の登録）

第七六条 著作権者又は無名若しくは変名の著作物の発行者は、その著作物について第一発行年月日の登録又は第一公表年月日の登録を受けることができる。